

令和7年度 異中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

令和7年度 異中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	77	46	37	7.5	12.8	学校	449
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月21日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	85	57.0	44.5	46.4	41.8	47.0	7.7	8.1	15.8	12.3	9.9
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	70	63.3	40.5	52.8	44.6	45.1	7.2	6.2	11.1	4.1	9.8
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	88	57.3	55.1	53.6	59.6	67.4	10.0	2.5	7.9	3.7	4.0
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	66.2	66.5	9.1	3.0	7.6	3.6	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「中学生チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
3年	学校	75	106.5	100.3	129.8	88.1
10月3日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

令和7年度 異中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 異中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	77	46	37	7.5	12.8	学校	449
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月21日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	85	57.0	44.5	46.4	41.8	47.0	7.7	8.1	15.8	12.3	9.9
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	70	63.3	40.5	52.8	44.6	45.1	7.2	6.2	11.1	4.1	9.8
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	88	57.3	55.1	53.6	59.6	67.4	10.0	2.5	7.9	3.7	4.0
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	66.2	66.5	9.1	3.0	7.6	3.6	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	75	106.5	100.3	129.8	88.1
10月3日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
2年 男子	学校	84	28.95	26.14	44.46	46.57	81.11	7.86	191.16	21.56	42.03
	大阪市	—	28.65	26.88	43.47	51.81	80.13	8.06	195.05	20.28	41.69
	全国	—	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	—	21.91	23.29	38.79	46.79	54.56	8.97	165.35	14.62	48.04
	大阪市	—	23.13	22.68	46.31	46.59	53.05	9.03	166.78	12.19	48.11
	全国	—	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 異中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

＜全国学力学習状況調査＞

- ・数学の平均正答率が37%と低く、大阪市の平均46%を9%下回った。(全国は48.3%)
特に数と式や図形の問題での正答率が低かった。また、無回答率は12.8%であり、全国平均より2%多かった(市は11.2%)
- ・国語の平均正答率は46%と大阪市の平均52%を6%下回った。(全国54.3%)
特に思考判断表現の領域において、書くことに関する正解率が低かった。また、無回答率は7.5%であり、市や全国平均と同じ程度であった。(市は6.8%)

- ・質問紙より学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)において「全くしない」割合が全国平均の2倍、大阪府の3倍の結果となった。
- ・質問紙より学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)において、「全くしない」の割合が62%と高い。
- ・1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたかの回答で使用の回数が少ない回答が多かった。

＜全国体力・運動能力、運動習慣等調査＞

- ・体力合計点において女子は今年度も全国平均値を上回ったが、男子は0.2ポイント下回った。生徒アンケート「運動やスポーツが好き」との肯定的回答は男子が68.4%、女子が42.3%であり、男子は全国平均を上回っている。(女子は同じ)
- ・男子の各種目では反復横跳びと長座体前屈、立ち幅跳びが全国平均を下回ったがその他は上回っていた。女子は握力と長座体前屈、立ち幅跳びは下回ったが、その他は上回った。男女共に20mシャトル走は全国平均を大きく上回る結果となった。
- ・男女別の体力合計点の結果は【男42.03(42.20) 女48.04(47.58)】(全国平均値)であった。

＜大阪市英語力調査(GTEC)＞

CEFR A1レベル相当以上の3年生の割合は50.7%であった。(大阪市の平均は60.3%)昨年度に比べ約4%向上した。「読むこと」、「書くこと」、「聞くこと」、「話すこと」4技能全て大阪市と比較して下回った。特に「書くこと」の差が大きかった。

＜チャレンジテスト＞

チャレンジテストの結果について3年生では5教科平均は府平均の88%であった。理科は90%以上であったが、その他の教科は府平均の90%以下という結果となった。2年生では5教科平均は府平均の94%であった。国語、数学は府平均に近いが、英語は10%以上下回る結果となった。1年生では3教科平均は府平均の96%であった。国語は府平均の90%であったが、英語は103%と府平均を上回った。いかに授業で興味を持たせながら取り組ませるかが課題となった。アンケート結果からは授業でのPC端末を利用しての意見交換する場面が府平均に比べ大きく少ない状況であった。また、学習以外に家でスマートフォンを使用する時間が1日4時間以上の生徒が半数以上であり、スマートフォンの使用時間が府平均に比べかなり多いことが毎年続いている。一方で「学級で違った意見や考えを受け入れる雰囲気がある」の肯定的な回答では府平均に比べ特に1年生で多く(約85%)、多文化共生教育や道徳教育等日々の対応が効果的に表れている。

【今後に向けて】

- ・全国学習状況調査の結果は数学、国語共に大阪市の平均を毎年下回るため、デジタル教科書の活用も含め各教科でタブレット端末より効果的に活用する方法(ICTを活用した個別最適な学びと協同的な学び)を模索しながら、学力向上につなげていく必要がある。また、放課後学習会を活用した学習習慣の定着や環境の整備を進めていく必要がある。
- ・校内研究授業を引き続き実施しながら研究協議や、相互授業参観により、個々の教員の授業力の向上を図る。
- ・各種調査における結果を対府の平均値に近づける。また、大阪市英語力調査の結果より、特にリーディングやリスニングを向上させた総合的な英語力を伸ばすことが課題となっている。次年度も英語検定を実施予定であり、英語力の向上には力を入れていきたい。また、次年度は国、数(1年生)で学びサポーターの重点支援校となるため、サポーターの活用時間が増加するため、効果的に活用し、各種調査結果を含めた学力向上の対策を進めていく。
- ・「学校の授業はわかりやすい」の肯定的な回答は高いが、教員の授業力(ICTの効果的な活用)は学校支援事業や授業相互参観期間、校内外の研修等を利用し、向上を目指し、授業に対してより生徒が興味をもつことが課題である。(学習での意見交換等を含めた効果的なPC端末の活用)
- ・スマートフォンを使用する時間が多いため、情報モラル教育を定期的の実施し、スマートフォンでのトラブルを未然に防ぐ必要がある。

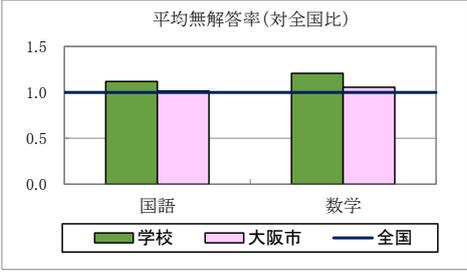
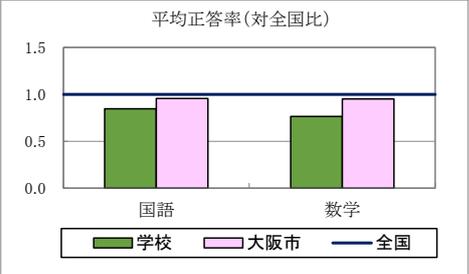
令和7年度 異中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	46	37
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	7.5	12.8
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

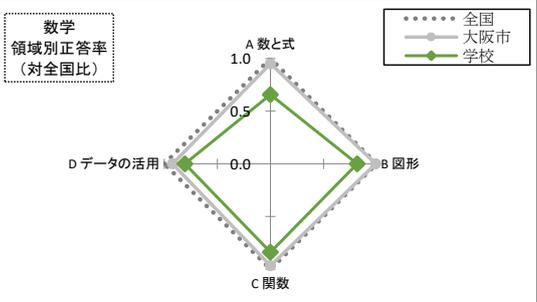
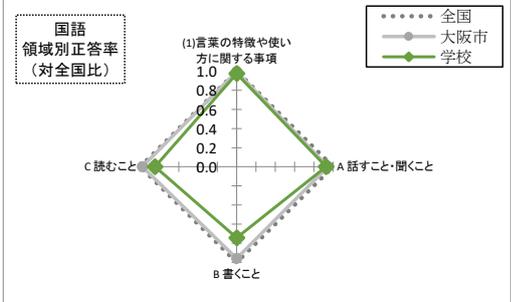
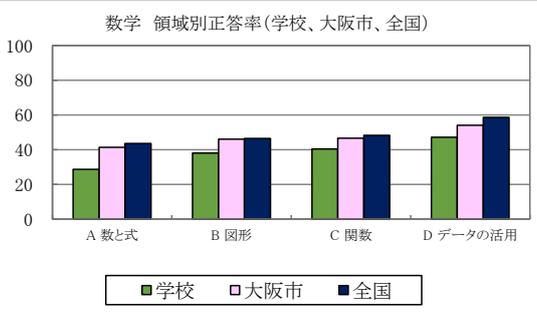
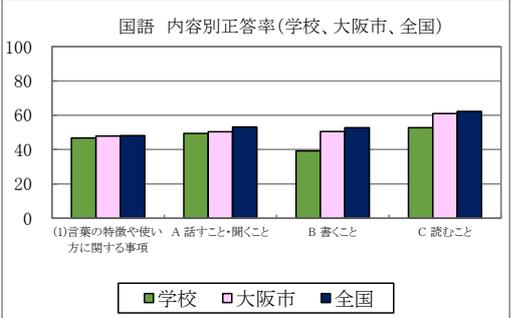


【 国 語 】

【 数 学 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	46.8	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	49.4	50.4	53.2
B 書くこと	5	39.2	50.6	52.8
C 読むこと	3	52.8	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	28.6	41.4	43.5
B 図形	4	38.0	46.1	46.5
C 関数	3	40.4	46.6	48.2
D データの活用	3	47.2	54.0	58.6

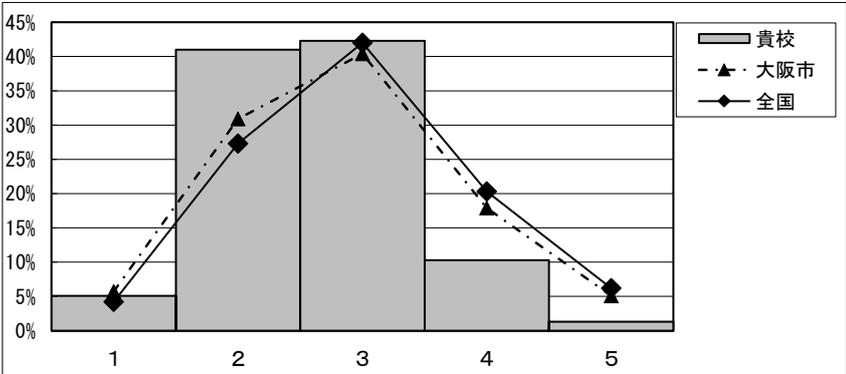
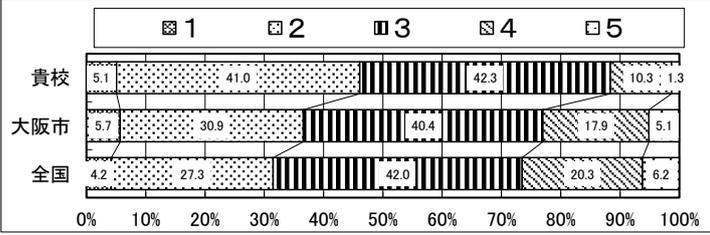


令和7年度 異中学校のあゆみ
 —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理科】

	平均IRTスコア
学校	449
大阪市	489
全国	503



令和7年度 異中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

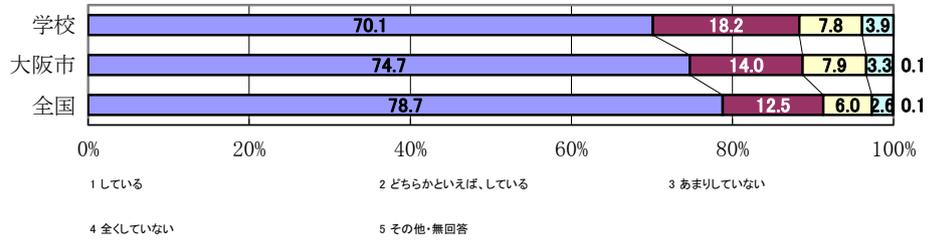
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

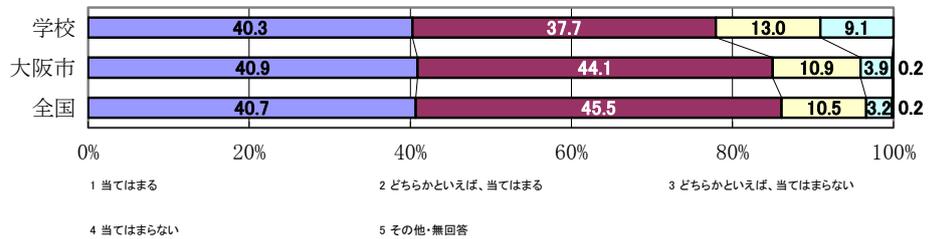
1

朝食を毎日食べていますか



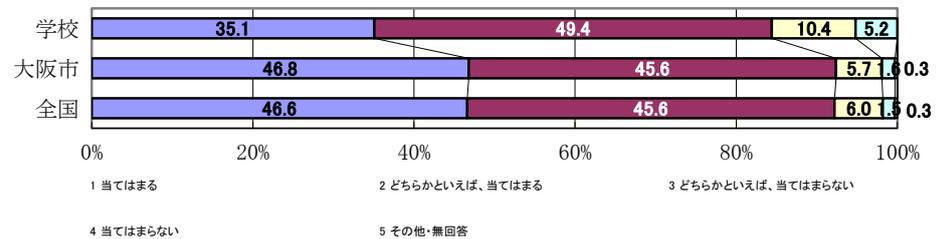
5

自分には、よいところがあると思いますか



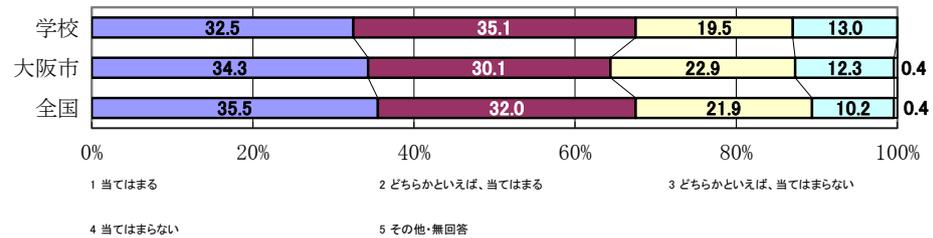
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



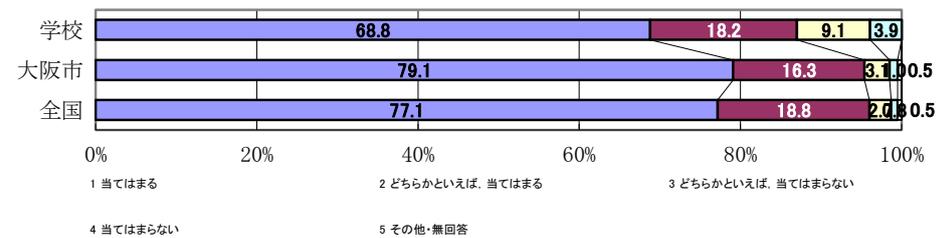
7

将来の夢や目標を持っていますか



9

いじめは、どんな理由があってもいけなないことだと思いますか



令和7年度 異中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

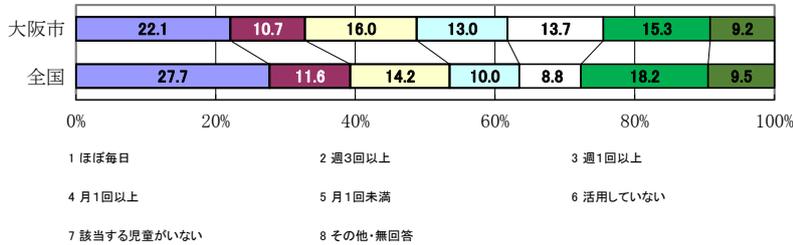
質問番号

質問事項

67_1

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(1)不登校生徒に対する学習活動等の支援((67-2)の授業配信を含む)

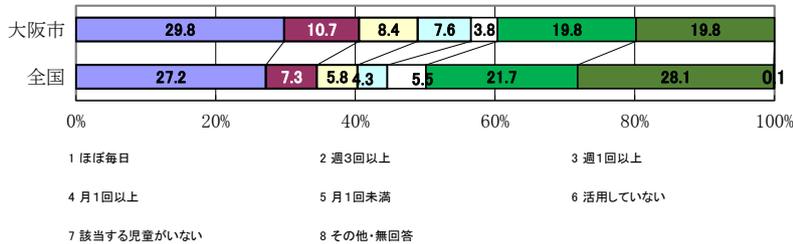
学校 「週3回以上」を選択



67_2

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(2)希望する不登校生徒に対する授業配信

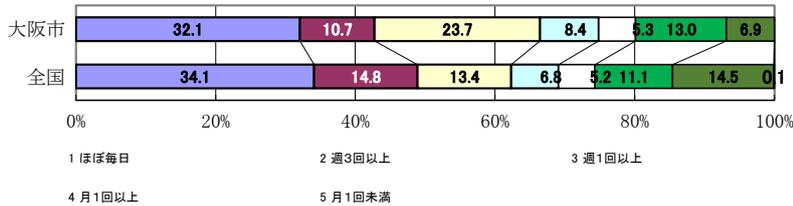
学校 「ほぼ毎日」を選択



67_3

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(3)特別な支援を要する生徒に対する学習活動等の支援

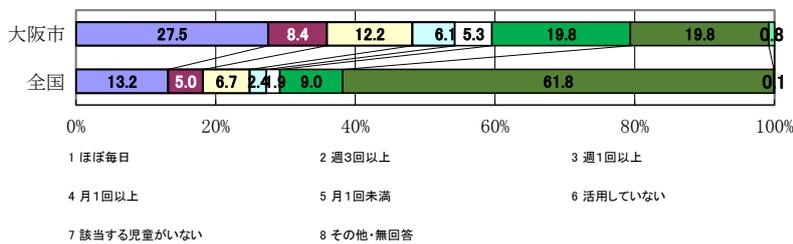
学校 「週1回以上」を選択



67_4

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(4)外国人生徒に対する学習活動等の支援

学校 「ほぼ毎日」を選択



67_5

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(5)生徒の心身の状況の把握

学校 「ほぼ毎日」を選択

